

6 地域のお宝「くびき野レールパーク」 ～よみがえった頸城鉄道～



特定非営利活動法人 くびきのお宝のこす会 新潟県 上越市

手づくり郷土賞について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

頸城鉄道は1914(大正3)年に開業したレール幅762mmの軽便鉄道です。長らく地域の人々の交通や物資輸送を担っていましたが、バスやトラック輸送への転換により1971(昭和46)年に廃止されました。頸城鉄道廃線後、蒸気機関車コッペル2号機を除き、当時の車両は行方不明となっていました。30年以上経って兵庫県六甲山中で保管されていることが判明し、2004年に奇跡の帰還を果たしました。

その後、頸城鉄道の中心駅であった「百間町(ひゃっけんまち)駅」の機関庫跡地を利用し、動態復活を果たした機関車や客車、貨車の保存・展示を行う「くびき野レールパーク」を2008年に開園しました。

また、隣接する旧頸城鉄道本社社屋を利用した頸城鉄道資料館では、頸城鉄道で使用された用具や実物部品などの貴重な品々を多数展示しています。



レールパーク車庫



1911年製の蒸気機関車「コッペル2号」



動態復活した1954年製ディーゼル機関車「DC92」

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

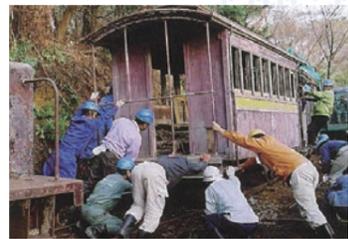
くびきのお宝のこす会は、旧頸城鉄道で活躍していた保存車両や、頸城の豪農・瀧本邸など、頸城地域に点在する貴重な歴史・文化遺産や自然環境資源などを掘り起こし、磨きをかけ、賑わいと潤いのあるまちづくりの推進に寄与し、さらに広く紹介することを目的として活動しています。

平成14年より地元有志により廃線となっていた「頸城鉄道」の復元に取り組み、旧機関庫に整備した「くびき野レールパーク」で定期的に行う車両の一般公開・体験乗車イベントでは、毎回県内外か

ら大勢の見学者が訪れるようになりました。

また、地元の小学生や保育園児の郷土学習や各種団体の見学・研修に応じ、頸城鉄道が地域に果たしてきた役割や、復元に掛けた想い等を伝えています。

「くびき野レールパーク」での公開イベント・体験乗車については、見学者からの寄付金(金額は任意)は受領しているものの、入場料・体験料の徴収は行わず、活動はすべて会員のボランティアで運営しています。



六甲山中からの車両搬出作業



枕木、レールの敷設作業



一般公開(体験乗車)の様子

3 活動の成果や波及効果等

平成14年に初めて行った蒸気機関車コッペル2号機の公開展示に始まり、平成16年に兵庫県の六甲山中から7車両の「奇跡の帰還」とその後の内外装の復元整備、機関車2両の動態整備を順次実施するとともに、レールパークの線路延伸等を行い、定期的な一般公開(動態展示・体験乗車会)の開催を行っています。

一般公開の実施や地元小学生等の体験学習を行うなど、県内外から毎年2,500人以上が訪れ、交流・関係人口の拡大、地域の歴史・文化遺産の継承等、子供たちや大人たちが地域に関心を持ち、地域の素晴らしさを感じてもらうことに寄与しています。

また、頸城鉄道と地域の暮らしを偲ぶ写真集や「奇跡の帰還」に至ったエピソードを紹介する書籍の発刊、地域情報誌や新聞への記事掲載も相次いでいます。



一般公開(体験乗車)の様子



一般公開の様子



一般公開(体験乗車)の様子



頸城鉄道を紹介する書籍や記事

喜びの声



受賞者
特定非営利活動法人
くびきのお宝のこす会
会長
西山 義則

コメント

今回の受賞で、旧頸城鉄道を動態保存している「くびき野レールパーク」の魅力が広まっていくことを大変嬉しく思っています。

これまで約20年間、保存活動に関わってくださったすべての皆さんに感謝するとともに、受賞を喜び合いたいと思います。これからも「頸城鉄道」に込められている人々の思いを発信し続け、地域の活性化に努めていきます。

活動の内容

- くびき野レールパークの一般公開、定期公開イベント(動態保存車両による体験乗車会)
- 小学生、保育園児を対象とした学習活動の支援
- 各種団体の見学・研修
- くびき野レールパークの線路補修、枕木交換
- 保存車両の整備

活動の経歴

- 平成14年 蒸気機関車コッペル2号機の公開展示
- 平成16年 くびきのお宝のこす会設立
兵庫県六甲山中から車両が帰還
- 平成19年 特定非営利活動法人として活動開始
以後、活動を継続中

所在地 新潟県上越市頸城区百間町257

活動主体及び連絡先 特定非営利活動法人くびきのお宝のこす会
TEL:025-530-3684

対象となる社会資本 くびき野レールパーク(旧頸城鉄道公開展示保存施設)
※管理者:特定非営利活動法人くびきのお宝のこす会



手づくり郷土賞について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編